

iPad授業ガイド

中学校2年 社会



はじめに

このガイドについて

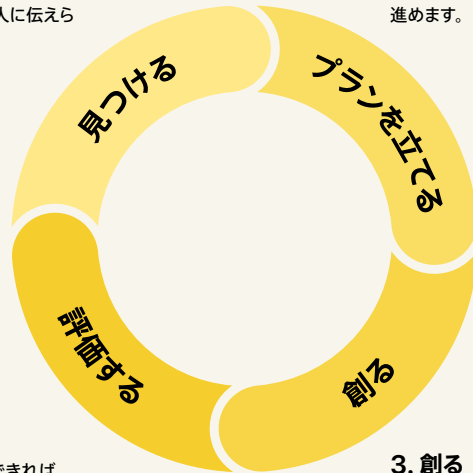
このガイドは、学習指導要領において重要視されている主体的・対話的で深い学びを、iPadを使って実現するための指針となるものです。それぞれの学年の教科ごとに3つの単元をピックアップし、毎日の授業に簡単に取り入れられるアイデアを紹介しています。各単元は、下記のデザインプロセスにもとづいて設計されています。このプロセスに沿って授業を進めることで、生徒たちは学習内容を身の回りのものと結びつけて考え、表現することを通して、知識を定着させていくことができます。

1. 見つける

体験活動などを通して、課題意識を持った教科内容について、生徒が自ら情報を集め、言葉や写真、ビデオなどを使って整理することで、気づいたことを周りの人に伝えられるようにします。

2. プランを立てる

収集した情報を比較したり、分析したりしながら、周りの人の見解や新たな発見を通して整理し、伝える内容をより充実させる計画を立て、準備を進めます。



4. 評価する

自分らしく学ぶことができれば、生徒たちはもっとスキルを高めて様々な方法で表現したいと思うようになります。他者評価や振り返りを通して学んだことを言語化し、応用できるように概念化して、次の学びにつなげます。

3. 創る

スケッチや音楽、ビデオやプレゼンテーションなどの創作活動を通して、学んだことを自分の強みと結びつけ、理解した内容を目に見える形で表現します。

情報活用能力について

情報活用能力は、言語能力や問題発見・解決能力と同様に、学習の基盤となる資質・能力として位置付けられており、教科横断的な視点での育成が求められています。このガイドで紹介するアイデアを授業に取り入れれば、情報活用能力を自然かつ効果的に身につけていくことにつながり、そこで獲得したスキルはほかの教科においても簡単に応用することができます。[文部科学省作成の情報活用能力の体系表\(16ページ以降\)](#)は、この能力を段階的、体系的に育成するため、具体的な内容を資質・能力の3つの柱に沿った、5つのステップに分けて提示しています。中学校向けのガイドでは、ステップ4に相当するスキルを養えるよう、この体系表を参考にアイデアを紹介しています。ぜひこれらの情報を新しい授業作りやカリキュラム・マネジメントに役立ててください。

形成的評価のためのルーブリック

資質・能力の3つの柱をバランス良く伸ばしているか、また、教師のみなさんの「ねがい」や「ねらい」が実現されているかを確認する助けとなるよう、各単元の活動内容に合わせたルーブリックを用意しました。項目ごとに複数の評価基準を提供しているので、その中から、教師のみなさんが注目し、成長を見取っていきたい内容を選んで記録することができます。単元を左記のデザインプロセスに沿って評価し記録することで、テストだけでは測りきれない学習効果を可視化したり、生徒の振り返りに活用したりすることもできます。

[ルーブリックをダウンロードする](#) 

実践的な学びを促すワークシート

教師のみなさんが授業をスムーズに進められるように、各単元の活動内容に合わせたワークシートを用意しました。PDF内のリンクからダウンロードしたワークシートをAirDropや、授業支援ツールのスクールワーク、クラスルームなどで配布すれば、生徒はファイルを開いて「編集」をタップするだけですぐに課題に取り組むことができます。

学習内容の概要

単元

日本の地域的特色と区分

iPadを使って、地域の情報を集め、その魅力を図形、写真、音声などを用いたインタラクティブなポスターにして伝えます。クラスで共有することで、情報は表現方法の違いや取捨選択の仕方によって、伝わり方が異なることを学びます。

地域のあり方

地域が抱える問題を提起し、解決のための行動を喚起するCMを作ります。自分の住む地域の課題に気づき、その解決策を主体的に考え、伝える力を養います。

開国と江戸幕府の終わり

歴史的偉人になりきり、ポッドキャストを制作します。それぞれの登場人物の観点から、多角的に日本の歴史の転換点について探究し、自分の言葉で説明できるようにすることで、歴史をより深く理解できます。

活動内容

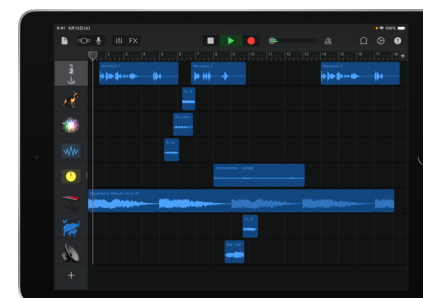
- ① 地域を多面的に見よう
- ② 地域の特徴をまとめよう
- ③ インタラクティブなポスターを作成しよう
- ④ 教材として配布し、生徒同士で評価し合おう



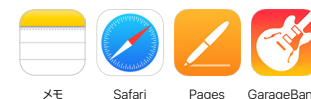
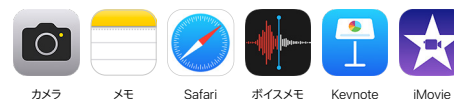
- ① 地域の課題を調べよう
- ② 課題に対してできることを見つけよう
- ③ CMを作ろう
- ④ 作品を評価し合おう



- ① 幕末に影響を与えた重要人物について調べよう
- ② ポッドキャスト番組の台本を考えよう
- ③ ポッドキャストを収録しよう
- ④ ポッドキャストの感想を述べ合おう



使用するアプリ



日本の地域的特色と区分

iPadを使って、地域の情報を集め、その魅力を図形、写真、音声などを用いたインタラクティブなポスターにして伝えます。クラスで共有することで、情報は表現方法の違いや取捨選択の仕方によって、伝わり方が異なることを学びます。

1 見つける	第1時 日本がどのような国か、どういう観点で調べるか話し合う	活動アイデア1 5ページ 地域を多面的に見よう	7	第7時 日本の資源やエネルギーについて	
	第2時 日本の地形について			活動アイデア2 5ページ 地域の特徴をまとめよう	8
	第3時 日本の気候について	9			
	第4時 日本の自然災害について			活動アイデア3 6ページ インタラクティブなポスターを作成しよう	10
	第5時 自然災害に対する備え	活動アイデア4 6ページ 教材として配布し、生徒同士で評価し合おう			
	第6時 日本の人口について				
2 プランを立てる			3 創る		
				4 評価する	

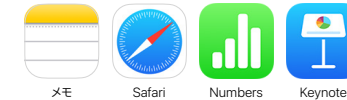
学習目標

「インタラクティブなポスター作り」の活動を通して、現状を認識し解決の方法を発想する力や、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

身につく力

様々な情報を収集し、その中からより重要な情報を見極める力。写真や図表、スケッチなどを用いて、要点をわかりやすく表現する力。

使用するアプリ



評価

各活動アイデアについて、「ルーブリック」を使って、生徒が学習目標をどの程度達成できたかを評価します。

[ルーブリックをダウンロードする](#) Ⓡ

iPad授業ガイドの詳しい使い方は

「使ってみようiPad授業ガイド」にて確認できます。

[「使ってみよう iPad授業ガイド」をダウンロードする](#) Ⓡ

*活動アイデア1~4は、各単元の中でiPadの活用効果の高い箇所に紐付けて示しています。なお、各単元の想定時数や授業の流れは、使用する教科書や教材などにより異なります。

日本の地域的特色と区分

見つける 活動アイデア 1 地域を多面的に見よう

- ① 日本の地域の中から、グループで1つ地域や地方を選び、Safariでその地域や地方の気候、人口、工業生産額、地形、交通、災害などのキーワードで検索します。
- ② 検索して見つかった説明や画像などの情報をもとに、グループでその地域や地方の特徴について考えます。例えば、ほかの地域や地方にはないユニークな点や目立った点に着目して、深く掘り下げて調べてみるのもよいでしょう。わかったことや気づいたことをメモアプリにまとめながら整理していきます。

💡 iPad活用のヒント

Safariで検索して参考にしたページをリーディングリストに追加してみましょう。画面右上の📌をタップし、「リーディングリストに追加」をタップします。画面左上の📌>🔍の順にタップすると、保存した記事が一覧で表示されます。

活用できるアプリ



中学校2年 | 社会

情報活用能力

社会におけるコンピュータや情報システムの活用(ステップ4)
情報通信ネットワークなどからの効果的な情報の検索と検証の方法(ステップ4)

プランを立てる 活動アイデア 2 地域の特徴をまとめよう

- ① グループでそれぞれ分担し、地域や地方の特徴を視覚的に表現します。
- ② 生徒は担当する特徴をわかりやすく伝えるために、Numbersでグラフを作成したり、Keynoteの描画でスケッチをしたりします。また、図形を組み合わせることでインフォグラフィックを作ったり、写真を取り込んだりするなど、自分の考えを整理し表現する準備をします。準備が整ったら、作品の制作に取りかかります。



活用できるアプリ



情報活用能力

情報のシステム化の基礎的な仕組み(ステップ4)
比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方(ステップ4)
表やグラフを用いた統計的な情報の整理の方法(ステップ4)

日本の地域的特色と区分

創る 活動アイデア 3 インタラクティブなポスターを作成しよう

- ① Keynoteの共同作業で、スライドの1ページ目にグループで担当した地域や地方の地図を配置し、その周りに活動アイデア2でそれぞれが表現した作品を並べ、ポスターのようにまとめます。
- ② Keynoteの2ページ目以降のスライドに、それぞれが表現した作品を貼り付けます。その作品について、「オーディオを録音」を使って音声解説を加えてもよいでしょう。
- ③ Keynoteのリンクでスライド1ページ目と2ページ目以降の間をつなぎ、インタラクティブなポスターを作ります。



活用できるアプリ



Keynote

情報活用能力

目的に応じた適切なアプリケーションの選択と操作(ステップ4)
クラウドを用いた協働作業(ステップ4)

さらに学びを深める ポスターを発展させよう

- 完成したスライドをムービーに書き出せば、地域紹介ビデオを作ることができます。
- スライドの切り替えにトランジションをつけたり、書き出したムービーをiMovieで読み込んでBGMや効果音をつけたりすることで、より魅力的な作品が作れます。
- 情報量が多く、Keynoteのスライドでは収まりきらない場合は、Pagesを使ってより大きなポスターを作ることができます。
- 活動アイデア1で調べたメモと、活動アイデア2で作成したスケッチやアイコンを組み合わせ、スケッチノート*1を作ると、学んだことを体系的に整理し、楽しく復習できます。

*1) Everyone Can Create : スケッチ「落書き風アート」 11ページ

評価する 活動アイデア 4 教材として配布し、生徒同士で評価し合おう

完成したポスターをクラスで配布して、お互いに鑑賞することで、同じ切り口の情報でも様々な表現方法があることを学びます。各地域や地方について詳しく学ぶ際に、配布されたポスターを教材として使うこともできます。ほかのグループのポスターから得たアイデアや知識を参考に、自分のグループのポスターに手を加えて完成度を高めます。また、配布されたポスターについて、グループ同士で詳しくフィードバックをし合ったり、別のクラスの生徒や身近な人の意見を聞いたりして、日本の諸地域の地理的特色の捉え方について気づいたことを自分の言葉でまとめます。

地域のあり方

地域が抱える問題を提起し、解決のための行動を喚起するCMを作ります。
自分の住む地域の課題に気づき、その解決策を主体的に考え、伝える力を養います。

1	見つける	第1時 身近な地域の課題に注目する	◀ 活動アイデア 1 8ページ 地域の課題を調べよう
2		第2時 地域の実態を調査する	
3	立てる プランを	第3時 要因を考察する	◀ 活動アイデア 2 8ページ 課題に対してできることを見つけよう
4	創る	第4時 解決策を構想する	◀ 活動アイデア 3 9ページ CMを作ろう
5	評価する	第5時 構想の成果を話し合う	◀ 活動アイデア 4 9ページ 作品を評価し合おう

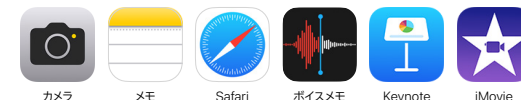
学習目標

「地域の課題を解決するためのCM作り」を通して、自分の住む地域の現状を認識し、その解決策を主体的に考えて、伝える力を育成する。

身につく力

地域の人たちとの対話を通して課題を発見し、解決策を発想する力。また、情報を整理し発信する力。

使用するアプリ



評価

各活動アイデアについて、「ルーブリック」を使って、生徒が学習目標をどの程度達成できたかを評価します。

[ルーブリックをダウンロードする](#) Ⓣ

iPad授業ガイドの詳しい使い方は

「使ってみようiPad授業ガイド」にて確認できます。

「使ってみよう iPad授業ガイド」をダウンロードする Ⓣ

*活動アイデア1~4は、各単元の中でiPadの活用効果の高い箇所に紐付けて示しています。なお、各単元の想定時数や授業の流れは、使用する教科書や教材などにより異なります。

地域のあり方

見つける 活動アイデア 1 地域の課題を調べよう

- ① Safariで市区町村のウェブサイトなどを検索し、地域の特徴について触れた文章やデータを調べ、その特徴を表すキーワードを探します。
- ② 探し出したキーワードの中で、今後地域が持続性のある社会であるために必要な課題を、グループで話し合って選びます。
- ③ 課題についてさらに深く掘り下げて考えられるように、放課後や休日、夏季や冬季の長期休暇の間に、数人のグループで地域を歩いて写真を撮ったり、そこに住む人にインタビューしたりするのもよいでしょう。iPadで写真を撮ったり、録音をしたりする中で、観察する力や発見する力、聞き取る力なども身につきます。また、インタビューに気持ち良く答えてもらえるように、撮影をする際はまず挨拶をする、必ず撮影の許可をもらうなどの注意点を生徒たちと話し合います。

💡 iPad活用のヒント

メモアプリで、インタビューのためのTo Doリストを作ってみましょう。リストの最初の項目を入力して📍をタップし、Returnキーをタップして項目をさらに追加します。iPadが横向きの場合、📍をタップすると、メモリストの表示、非表示を切り替えることができます。

活用できるアプリ



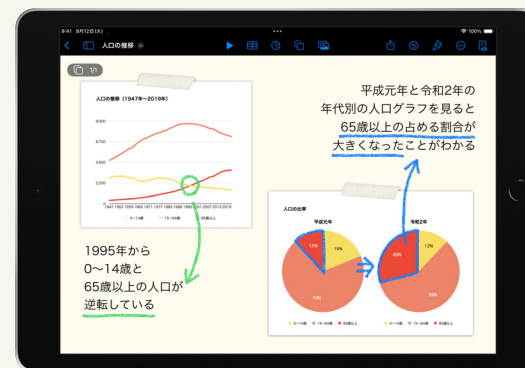
中学校2年 | 社会

情報活用能力

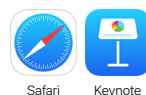
情報通信ネットワークなどからの効果的な情報の検索と検証の方法(ステップ4)
社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることを踏まえ、行動しようとする(ステップ4)

プランを立てる 活動アイデア 2 課題に対してできることを見つけよう

- ① 同じグループの生徒たちで話し合い、自分たちの地域の課題とその解決策を考えます。Safariを活用して、自分たちの考えを裏付けるデータを収集します。
- ② ①で収集したデータをKeynoteにまとめていきます。スクリーンショットやSafariで検索して見つけた画像を使用する際には、著作権に注意する必要があります。検索する時は著作権フリーなどの条件を設定したり、引用する時には出典元を明記したりするなど、情報モラルについて生徒がきちんと理解していることが大切です。



活用できるアプリ



情報活用能力

意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係(ステップ4)
情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする(ステップ4)

8

地域のあり方

創る 活動アイデア 3 CMを作ろう

- ① グループで協力して、地域の課題とその解決策を提案するCMを制作します。
- ② iMovieに用意された予告編の中から、課題に合ったテーマを選びます。絵コンテにもとづいて、どのようなストーリーにするか、どのような素材が必要かをグループで考え、話し合います。
- ③ 素材となるビデオを撮影します。同じ場面を複数のiPadで撮影したり、何度も撮影し直したりして、最適な素材をあとから選択できるようにします。
- ④ CMが完成したら、意図や内容がわかりやすく伝えられているか、グループで確認します。



活用できるアプリ



中学校2年 | 社会

情報活用能力

情報を統合して表現する方法(ステップ4)

さらに学びを深める より多くの人と課題を共有するには

- 活動アイデア2で作成したスライドなど、必要なデータをオーバーレイで表示したり、グリーンスクリーン*1を使用して撮影したビデオの背景に配置したりすることで、より説得力のあるビデオを作ることができます。
- 提起した問題をより多くの人に知ってもらうために、作ったCMをどのように活用できるか考えてみましょう。体育祭や文化祭などで上映したり、公共の施設や商店街で流したりしてもらうこともできるかもしれません。
- 課題解決に向けて、CM以外にどのようなアプローチが必要かについても考えてみましょう。

*1) Everyone Can Create : ビデオ「特殊効果」 110ページ

評価する 活動アイデア 4 作品を評価し合おう

完成したCMを発表し、気づいた点について意見を交換します。CMは幅広い視聴者が対象となるため、作成したCMをほかの教師のみなさんや、地域の人たち、ほかの学年の生徒など、様々な人に見てもらいます。その人たちからコメントをもらい、伝えたい情報が伝わったかどうかを確認します。どのような工夫をすると、より多くの人にメッセージが伝わるか、また、多様な意見がある中で、どのような見せ方を優先するとよいかを話し合います。この活動を通して、地域の抱える問題の解決策について気づいたことを自分の言葉でまとめます。

開国と江戸幕府の終わり

歴史的偉人になりきり、ポッドキャストを制作します。それぞれの登場人物の観点から、多角的に日本の歴史の転換点について探究し、自分の言葉で説明できるようにすることで、歴史をより深く理解できます。

1	見つける	第1時 日本と世界	◀ 活動アイデア 1 11ページ 幕末に影響を与えた重要人物について調べよう
2	プランを立てる	第2時 黒船来航と開国	◀ 活動アイデア 2 11ページ ポッドキャスト番組の台本を考えよう
3		第3時 開国による変化と影響	
4	創る	第4～5時 江戸幕府の終わりとその理由	◀ 活動アイデア 3 12ページ ポッドキャストを収録しよう
5	評価する		◀ 活動アイデア 4 12ページ ポッドキャストの感想を述べ合おう

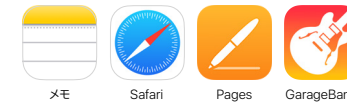
学習目標

ポッドキャストで「幕末インタビュー」を制作する活動を通して、情報を整理し創造的に伝達する力や、主体的に学習に取り組む態度を育成する。

身につく力

ウェブサイトなどから収集した情報を関連付け、歴史的背景を効果的に発信、伝達する力。他者と協働する力。

使用するアプリ



評価

各活動アイデアについて、「ルーブリック」を使って、生徒が学習目標をどの程度達成できたかを評価します。

[ルーブリックをダウンロードする](#) Ⓣ

iPad授業ガイドの詳しい使い方は

「使ってみようiPad授業ガイド」にて確認できます。

「使ってみよう iPad授業ガイド」をダウンロードする Ⓣ

*活動アイデア1～4は、各単元の中でiPadの活用効果の高い箇所に紐付けて示しています。なお、各単元の想定時数や授業の流れは、使用する教科書や教材などにより異なります。

開国と江戸幕府の終わり

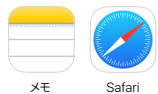
見つける 活動アイデア1 幕末に影響を与えた重要人物について調べよう

- ① 4人ずつのグループに分かれます。幕末の重要人物を挙げるとしたら誰が良いかをグループで話し合い、主要な人物を3人選びます。活動アイデア3で、グループの1人はインタビュアー役となり、残りの3人は選んだ重要人物を演じます。
- ② 選んだ重要人物をSafariで検索します。その人物はなぜ幕末に重要な役割を果たすことになったのかを詳しく調べて、メモアプリにまとめ、インタビューや役作りに活用します。

💡 iPad活用のヒント

Safariで、ウェブページを1つ開いている状態で、ほかのウェブページを閲覧してみましょう。画面右上の📖を長押しし、「Split Viewで新規ウインドウ」をタップしてください。画面が分割され、2つ目のブラウザウインドウが表示されます。

活用できるアプリ



中学校2年 | 社会

情報活用能力

意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係(ステップ4)条件を踏まえて情報及び情報技術の活用の計画を立てる手順(ステップ4)

プランを立てる 活動アイデア2 ポッドキャスト番組の台本を考えよう

- ① インタビュー形式のポッドキャストの台本を考えます。インタビュアーは「当時、どんな理由や思いで行動したか?」「その結果を振り返って、今はどう思うか?」などのテーマを考え、歴史的人物を演じる生徒は想像力をはたらかせながらセリフを考えていきます。インタビュアーはポッドキャストがわかりやすくなるよう、場面の歴史的背景なども説明できるようにします。
- ② それぞれの人物のセリフをPagesにまとめながら、台本を整えていきます。
- ③ 台本ができあがったら、Pagesの「オーディオを録音」を使って、セリフを読み、録音します。録音したセリフを聞きながら必要に応じて内容を調整し、台本を仕上げます。



活用できるアプリ



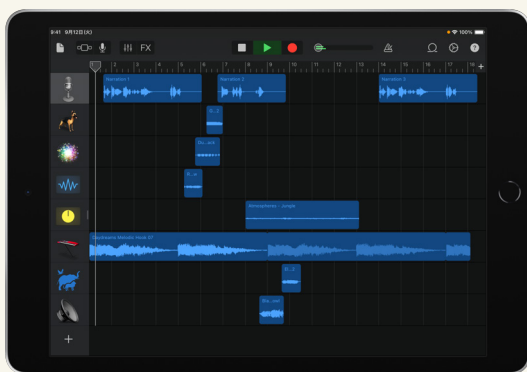
情報活用能力

問題の解決に向け、条件を踏まえて情報活用の計画を立て最適化し、解決に向けた計画を複数立案し、評価・改善しながら実行する(ステップ4)

開国と江戸幕府の終わり

創る 活動アイデア 3 ポッドキャストを収録しよう

- ① GarageBandのAudio Recorderを使って、幕末の主要な人物が歴史を振り返って語り合う様子を録音します。まずGarageBandのアイコンを長押しし、「新規オーディオレコーディングを作成」を選択します。
- ② 聞いた人が当時の様子を思い浮かべられることを目標に、例えば取り上げた人物の方言を使ってみたりしながら、録音します。
- ③ 録音した声にエフェクトをつけたり、🎛️ をタップして🔍 から場面に合うBGMを探し、流したい場面にドラッグして加えたりするなど、様々な方法でストーリーをより豊かに表現してみます。
- ④ 完成した作品は、曲として書き出します。



活用できるアプリ



GarageBand

中学校2年 | 社会

情報活用能力

安全・適切なプログラムによる表現・発信の方法(ステップ4)

さらに学びを深める 興味を引く演出を考えてみよう

- 「諸外国は当時の日本をどのように見ていたのか？」を題材に、イギリス、フランスなどの外国人役を番組に登場させ、インタビューするのもよいでしょう。
- GarageBandのLive Loops*1を使って、番組の最初に流すオリジナルのテーマ曲を作成してみましょう。
- 脚本作成にPagesの「脚本」のテンプレートを使うと、担当箇所のセリフや脚色項目がわかりやすくなります。
- 桜田門外の変、大政奉還などの歴史的な場面をラジオドラマ風に再現してみましょう。いくつかのグループに分かれて、シーンごとに担当し、クラス全体で重要な歴史上の出来事を再現します。

「脚本」のテンプレートをダウンロードする 

*1) Everyone Can Create : 音楽「Live Loops」 54ページ

評価する 活動アイデア 4 ポッドキャストの感想を述べ合おう

幕末の様子を思い浮かべながら、完成したそれぞれのポッドキャストを聞きます。歴史的人物を演じた生徒に質問したり答えてもらったりする中で、これまでの活動から得た気づきを自分の言葉でまとめます。ポッドキャストを作成したグループのインタビュアーが進行を担当し、人物を演じた生徒にリスナーからの質問に答えてもらうことで、より幕末史に対する理解を深めます。リスナーからの質問編のポッドキャストを作成してもよいでしょう。

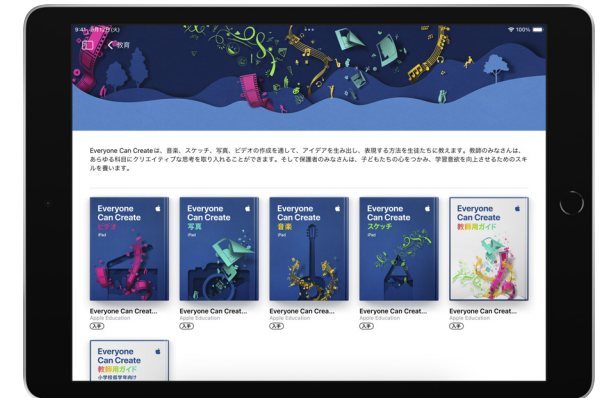
Appleのリソースについてもっと知る

Appleは教師のみなさんをサポートするために、様々な無料のリソースを提供しています。このガイドも、Everyone Can CreateおよびApple Teacherという2つのプログラムで紹介されている授業のアイデアやスキルを日本の小中学校に合わせた形で紹介したものです。さらに学びを深めたい方は、これらのリソースもぜひご覧ください。

Everyone Can Create

Everyone Can Createはアイデアを生み出し、伝えるスキルを身につけるためのプログラムです。ビデオ、写真、音楽、スケッチという表現手段をあらゆる教科に取り入れられるよう、4つのプロジェクトガイドと、2つの教師用ガイドを無料で提供しています。創造的な授業が、生徒の才能を引き出し、学びに夢中になるきっかけとなり、知識や技能の向上につながることは、調査研究によって示唆されています。これらのガイドを参考にしながら、授業をより魅力的なものに進化させ、クリエイティブなアクティビティを毎日の授業に取り入れる方法を身につけましょう。

[さらに詳しく >](#)



Apple Teacher

Apple Teacherは、毎日の授業や自身のスキルアップにApple製品を取り入れている教師のみなさんをサポートし、その成果をたたえるための無料のプロフェッショナルラーニングプログラムです。iPadやApple製アプリの使い方、授業のアイデアや実践例など、教師のみなさんに役立つリソースが数多く用意されています。プログラムに登録したメンバーには、Appleと教育に関するお知らせなどをメールで定期的にお届けします。

[さらに詳しく >](#)

